



結
yui

2016. 11. 5 No.72

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

TEL 080-5888-7824

Fax 029-856-2286



<http://peace.arrow.jp/tsukuba2/>

「11周年記念のつどい」ご案内 ～11月26日（土）開催～

日本国憲法が公布されて70年、国民主権と民主主義、個人の人権尊重、他国に対して武力を使用しない平和主義、これらを守り育てる礎として日本国憲法は働いてきました。とりわけこの平和主義の縛りをなくしたいという勢力が、秘密保護法の制定、集団的自衛権行使容認の閣議決定、そして今年の安全保障関連法施行と、強行突破したのが、今日の日本の姿です。

しかしながら、改憲勢力が3分の2を占める国会とは逆に、憲法を守れ！の声は国民多数を占めています。まだ間に合います。この声をもっと強め、共同の力を以ってこの現状を変えようではありませんか。

憲法9条の会つくば「11周年記念のつどい」を、11月26日の土曜日の午後、つくばイノベーションプラザにて開催します。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

あすわか（明日の自由を守る若手弁護士の会）共同代表の黒澤いつきさんに講演していただきます。法律の専門家としての立場から、憲法の大切さ、自民党改憲草案の危険性、そしてこの現状に立ち向かうあすわか活動を紹介していただいて、私たちの活動にヒントと刺激と活力をいただけると期待しています。

講演の後、つくば市在住の坂本優子さんによる中国民族楽器の二胡の哀愁を帯びた懐かしい音色を楽しんでいただきます。坂本さんは現代二胡のパイオニア的存在のウエイウェイ・ウー氏に師事され、二胡の魅力を伝えるため数々のイベントで演奏され普及に努めておられます。とても楽しみです。

11周年記念のつどいに、多くの方にご来場をいただき、ともに学び、考える場となること、明日の行動の力になることを願ってやみません。

憲法9条の会つくば「11周年記念のつどい」実行委員会

集会には130人を超える人たちが参加しました。3年前に結成された、つくばみらい市の9条の会からは20人も参加してくれました。土浦の旗も見えました。小さな子どもたちが、会場の前方ではしゃぎ回っていました。若い人や子どもたち、そして市外からも大勢参加したのを見ると、苦労して集会を準備してよかったとつくづく思います。

安倍晋三に代表されるウルトラ右翼国家主義者、国粹主義者らは、「自由と権利」を破壊する最悪の行為である戦争を、なんとかできる国にしようと、執拗に妄動を重ねています。

一方で、私たちが命がけで守りたいと願う平和憲法の12条では、この「自由と権利」は、国民の不断の努力無しには保持できない、と謳っています。まるで、70年後に戦前の亡霊ともいべき危険な政権が出現することを、予見するかのような条文です。

雨の中、集会とパレードを企画した私たちも、その集会に参加した市民の人たちも、客観的にはこの憲法12条の「不断の努力」を实践したまでのことですが、集会の規模は小さくても、やはりこれは「崇高な」行動であったと思われます。旗は、誰かが振り続けなければならないのでしょう。平和憲法が本当に生かされる時まで。（採決されたアピール文は安倍首相に郵送しました。）（山本）

**安保法制の発動を許さない
9・19つくば集会とパレード**



南スーダンから自衛隊は撤退せよ!

新聞や NHK 報道、アフリカ支援 NGO 団体などの情報によると、南スーダンの情勢は大変危険なものに替わりつつあります。国連南スーダン派遣団 (UNMISS) も 10 月 12 日南スーダン各地で武力衝突が増加しているとして強い懸念を示す声明を発表しています。稲田防衛相が数時間の滞在で「首都ジュバは安全」と国会答弁した 10 月 11 日当日、首都ジュバに続く国道で民間人を載せた車両が攻撃され 21 人が死亡、政府軍と反政府軍が責任をなすりつけあっています。南スーダンでは 2013 年以降、現大統領が率いる政府軍と前副大統領が率いる反政府軍が国家の主権を争う内戦状態に陥っており、7 月には首都ジュバで政府軍と反政府軍の大規模な武力衝突が発生、民間人を含む 270 人以上が死亡しました。この時は自衛隊宿営地に近くでも銃撃戦がおき、自衛隊員には「命を守るためには撃て」という命令が出されています。ところがこれらの事件について安倍首相と稲田防衛相は国会答弁で「戦闘行為ではなかった」(稲田)、「衝突であり永田町よりは危険」(安倍)などと軽口をたたく無責任な態度に終始しています。「現地は安全」とする一方で政府は 11 月スーダンに派遣される自衛隊に「駆けつけ警護」「宿営地防衛」「住民保護」など安保法制で認めた新任務を与えようとしています。派遣予定の自衛隊各部隊は任務の危険性を察知し、至近距離での実弾銃撃訓練、戦闘外傷の治療や緊急救命処置の訓練を着々と実施しています。日本の PKO 参加 5 原則では、「紛争当事者間の停戦合意」が前提とされていますが、現在停戦合意は崩壊しています。東京外国語大学の伊勢崎賢治教授は「首都で政府、反政府双方の主力部隊が交戦している。停戦が守られていると考えているのは日本だけだ。」と話しています。自衛隊は現在駐留している部隊を含め南スーダンから即刻撤退し、国際 NGO との協力で教育支援や社会インフラ整備などの、9 条を生かした平和構築に資する支援に力を注ぐべきです。(共同代表 穂積妙子)

沖縄高江 N1 ゲート前 座り込み報告

つくば市平和委員会は、沖縄高江のヘリパッド建設反対の現地座り込みに参加するため、9 月 2 日(金)

から 5 日(月)まで 3 泊 4 日の日程で若者 4 名を含む 6 名で行ってきました。

座り込みは朝が早い、午前 3 時 30 起床、宿泊地「でいご家」で知り合った仲間が作ってくれたおにぎりを食べ集合時間 6 時に間にあわせるため出発、東村高江の集落の手前にある大泊橋手前で機動隊により 30 分ほど足止めされたが集合時間を気にして N1 ゲート前に向かった。

N1 ゲート前ではすでに住民が座り込んでおり、その周りを警察が囲んでいた。山城ヒロシさんの指示のもと私たちも警察を取り囲むように座り込みに参加した。住民が警察を取り囲んだ時、緊張はすぐ起きた。路駐の約 40 台の警察車両から多くの機動隊が集結したからだ。この時私は緊張し不安になったが、機動隊は本部からの指示待ちのようすで待機していた。その後、平和市民連絡会が弁護士同行のもと大型バスで現れると、反対住民の数の多さからか機動隊は N1 ゲート前から一斉に撤退した。その後 N1 ゲート前では、系数参議院議員、県議・市長村議員、退役軍人をつくる「ベテランズ・フォー・ピース」及び各市民団体の代表が共に闘うことを訴えた。



その後 12 時頃 N1 ゲート前での参加者は、高江橋に移動し約 200 人で車両を周辺に止めダンプカーの搬入を警戒した。

14 時すぎ N1 ゲート

付近に止まっていた警察車両は続々と撤退し 15 時頃、山城さんが「今日は砂利の搬入はない」と「勝利宣言」し 15 時半すぎこの日の一斉行動が終了した。

私たちは、基地の県内移設に反対する県民会議が高江に結集しようと呼びかけた最初の日に参加し住民勝利を目撃した。その後、本土に戻ってからの情報によると翌週の月曜日からはダンプの搬入があり、14 日には工事用車両の空輸が陸上自衛隊 CH47 ヘリで行われた。高江で起きているこのことは、この日本で起きていること。本土に戻ってから一層近く感じた。

国家の暴力に対し、毎日、非暴力に徹しながら早朝から闘い抜いている沖縄県民と本土からの同志達に「権力に負けるかもしれない、でも闘うよ」と言われた気がした。自分にできることから始めることにした。今サンフランシスコ講和条約、日米安保条約、日米行政協定の英語版を読みはじめた。(文責・つくば市平和委員会 荒井)

当会では毎月第3日曜日に定例署名、9日に9の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりNO@つくば」と共に、毎月3日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

「アベ政治を許さない」 スタンディング

▼澤地久枝さんの呼び掛けによるスタンディングが毎月3日、TXつくば駅前で行われています。「アベ政治を、許さない」と書かれたポスターや、その時々の絵柄に「アベ政治、を許さない」を載せた自作のプラカードを持つでのスタンディング。毎回10人以上の参加です。11月3日には、ぜひご参加ください。

▼署名は毎月、3日、9日、第3日曜日の3回実施しています。10月は天候不順で、3日・9日ともに恨みの雨で中止となりましたが、第3日曜日の16日、「憲法9条を守ろう！10・21 県南大集会」の10月21日に署名活動をしました。署名数は16日が25筆、21日が60筆で、これまでの署名総数は16,332筆になりました。11月26日の11周年のつどいまでに目標の18,000筆に少しでも近づきましょう！（署名担当）

九条の会全国交流 討論集会に参加して

＜九条の会新世話人紹介＞
9月25日、九条の会全国交流討論集会全体会の最後に、新しい12人の世話人が確認されました。厳しい情勢を前に九条の会が新たな体制で「9条を守り生かす」活動に取り組む決意を示すものでしょう。新世話人の紹介をします（順不動、敬称略）。

愛敬浩二（名古屋大学・憲法学）高遠菜穂子（国際ボランティア）朝倉むつ子（早稲田大学・労働法）内橋克人（経済評論家）池内了（名古屋大学・宇宙物理学）清水雅彦（日本体育大学・憲法学）池田加代子（ドイツ文学翻訳家）伊藤千尋（元朝日新聞記者）高良鉄美（琉球大学・憲法学）内橋敏弘（一橋大学・憲法学）田中優子（法政大学総長）伊藤真（弁護士）

九条の会第6回全国交流討論集会が9月25日、東京千代田区の明治大学で開かれました。参加者は全国400余の地域・分野の会からお見えになった約500人です。集会の席上、体制強化のため12人の「世話人会」を設けたことが報告されました。

九条の会のトップ集団に初めて理系の人（宇宙物理学の池内了さん）が入ったこと、高遠菜穂子さんのような若い女性が多くなったことなど、今後の活動が活発になることを予感させる布陣でした。

ただ、ほんのり疑問が湧きました。こんなに大きな組織体制の変革が事務局の一存で決まるのです。それほど強力な事務局と新設された世話人会との任務分担あるいは権限関係は今後どうなるのでしょうか？走りながら良い方向に定まっていくことを期待したいと思います。

小森事務局長から冒頭に問題が提起されました。「今、

「憲法9条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2016年9月5日現在
総数 938名（市内673名）
◆9条署名9月10日現在 16,332筆

戦争法を、第三次安倍政権に使わせない、このギリギリのせめぎあいの中に、私たちはある。そして、安倍政権が自らの任期中にと言っている、明文改憲を絶対にさせない、そういう力関係をどのようにして作っていくのか。この課題に取り組む上で留意したいことがあります。それは私が「護憲軍備派」と呼ぶ平和グループとの連携です。グループの代表的な論客は、柳澤協二さんや小林節さん。「戦後日本が平和でいられたのは憲法九条があったからか」—この問いかけに彼らは答えます。平和だったとは、侵しも侵されもしなかったことだと。「日本がアジアや中東その他を侵さなかったのは、まさに憲法九条のおかげである」。しかし「日本がどこからも侵されなかったのは、自衛隊と駐留米軍のおかげである」。これが彼らの認識です。自民党もかつてそう言っていました。その自民政権を選んできた国民多数の意見も同様だと見ていいでしょう。大事なのは、「海外戦争」が違憲だと彼らが、すなわち国民の多数が、考えていることです。この一点で「護憲軍備派」と私たちは連携できません。また連携しなければ阿部政権の暴走を打ち破ることができません。そのことを強く訴えたいと思います。

賛同人・中山熙之（阿見在住）

県南地域9条の会 交流会

県南地域9条の会交流会が約半年ぶり、10月17日開かれました。参加9条の会は、つくばみらい、かすみがうら、阿見、土浦、牛久、石岡、つくば、つくば研学9条の8団体でした。2000万人署名活動を含むこの間の活動の交流と九条の会全国交流集会の参加者からの報告、衆議院選挙に向けて6区、3区の市民連合結成の動きについての報告などが、議題として話されました。県南地域で9条の会が未結成の地域については、引き続きいろいろな方面からアプローチを続けることが確認されました。

憲法9条を守ろう！ 10.21 県南大集会

10月21日夕の竹園公園で、恒例の表題の集会在、200名を超える参加者を得て開催されました。開会前の短時間、当会の7名の参加で、「憲法9条を変えないこと求める」署名は60筆をいただきました。市民団体を代表して武田さんがスピーチ。2000万人署名の取り組みや「国防軍を創り・国が国民を縛る」自民党改憲草案の危険な内容をアピールして、11周年記念のつどいへの参加を呼びかけました。集会后、終始元気なシュプレヒコールが響くデモ行進を行いました。主催者挨拶【小滝学研労協議長】で、労組が平和運動に取り組むことの大切さを強調されていたのが印象的でした。（H.N）

ドキュメンタリー映画
『チリの闘い』

- 第1部 「ブルジョワジーの叛乱」
- 第2部 「クーデター」
- 第3部 「民衆の力」

パトリシオ・グスマン監督による3部構成のドキュメンタリー映画である。

東西冷戦期の1970年、チリでは選挙によって成立した世界初の社会主義政権が誕生し、サルバドール・アジェンデが大統領に就任した。「反帝国主義」「平和革命」を掲げて世界的な注目を集め、民衆の支持を得ていたが、その改革政策は国内の保守層、多国籍企業、そしてアメリカ合衆国政府との間に激しい軋轢を生み、チリの社会・経済は混乱に至る。

1973年9月11日、陸軍のアウグスト・ピノチェト将軍ら軍部が米国CIAの支援を受け、軍事クーデターを起こす。アジェンデは自殺（諸説あり）。以後、チリはピノチェトを中心とした軍事独裁政権下に置かれた。

パトリシオ・グスマンは、このチリにおける政治的緊張と社会主義政権の終焉を撮影・記録。クーデター後、グスマンは逮捕・監禁されるも処刑を逃れ、フランスに亡命。撮影されたフィルムも奇跡的に国外に持ち出され、映画監督クリス・マイケルやキューバ映画芸術産業庁の支援を得て、「史上最高のドキュメンタリー映画」とも言われる破格の作品を70年代後半に完成させた。

（以上、映画チラシより）

ドキュメンタリー映像は白黒で、編集された3部作は合計4時間半に及び。しかし、報道カメラマンに向けられた軍人の銃が発砲される瞬間、軍用機が自国の大統領府を爆撃する（奇しくも9月11日に）映像など、衝撃的なシーンが続き目が離せない。そして何よりも、大変な困難の中、アジェンデ大統領を支え、自分たちの生活と平和を守ろうと行動し労働を貫く民衆の“一人一人”の顔が生き生きと映し出されているのが印象に残る。

撮影は、アジェンデ大統領が率いる人民連合が議会選

挙で勝利した73年3月から。負けた右派は米国の支援を受け、物資の買い占めや企業の生産放棄、暴動など社会の混乱を執拗に画策する。しかし、政権派は「政府を守れ」と工場や農地を自ら運営し、物流網を整え、団結して国民生活を支えた。手段が尽きた右派と米国は、軍による大統領府の爆撃というカブクのクーデターを策動する。

詩人の柴田三吉は、この映画を観て次のように評している。（「赤旗」9月5日付）

- （1970年の人民連合政権誕生以降、）議会で過半数を占める右派国民党は、あらゆる方法を駆使して政権の妨害を図る。対する大統領支持派は忍耐強い抗議とデモで対抗するが、だれもが圧力鍋に押し込められたような息苦しさを感している。
 - 国論は二分され、両者の衝突もしだいにエスカレートしていく。（73年の議会選挙で負けて）暴力に傾斜していくのは右派側で、政治家までもがクーデターの可能性をちらつかせはじめる。その動きを裏で操っていたのがアメリカのCIAだ。彼らは様々な謀略に深く関わり、チリ国民が選択した道の、希望の橋を爆破したのだ。
 - 多様な視点を持つこの3部作によって、私たちはチリ現代史に刻まれた傷の深さを知る。出来事の記述だけでは見えない庶民の表情、声が、胸にまっすぐに浸透してくるからだ。個別の名、個別の顔、個別の声で私たちの前に現れ、語り、行動する人々。その存在こそが歴史なのだと知らされる。
 - 爆撃下の大統領府で、最後まで投降を拒み続けたアジェンデ大統領が、死の直前、ラジオで国民に呼びかけた言葉——「歴史は我々のものだ。人民が作るのだ。労働者万歳！」
- 現代の日本の政治・社会の中に生きる私たちは、この映画から「独占資本」と「アメリカ帝国主義」が一体となった怖さを痛感する。その“富裕層の利害”しか見ない勢力の横暴に抗するのが、“平和的な共存繁栄”を望む人民の知性と連帯による「闘う力」なのである。（G）

インフォメーション

- 11月20日（日）戦争法廃止！海外派兵・参戦は許さない 11・20 県南集会 13:30～土浦市亀城公園（主催：県南総がかり実行委員会）
- 12月4日（日）憲法9条牛久の会10周年記念「戦争体験者の思いを受け継ぎ、若者と将来を考えよう」9:30～12:00 牛久市中央学習センター大会議室
- 12月8日（木）12・8 不戦のつどい 18:00～20:00 並木交流センター2階大会議室（予定）
- 12月11日（日）映画上映会「戦場ぬ止み」午前11時・午後2時 2回上映つくばイノベーションプラザ（主催「戦場ぬ止み」上映実行委員会）

行動予定

- 11月9日（水）9の日署名行動 12:00～13:00 アルス前
- 11月19日（土）世話人会 13:30～16:00 並木交流センター
- 11月20日（日）定例署名行動 12:00～13:00 クレオ前
- 11月26日（土）11周年記念のつどい 14:00～16:30 つくばイノベーションプラザ
- 12月3日（土）アベ政治を許さないスタンディング 13:00～13:30 TX つくば駅A3出口
- 12月9日（金）9の日署名行動 12:30～13:00 アルス前
- 12月17日（土）事務局会 10:00～13:00 市民活動センター（予定）
- 12月18日（日）定例署名行動 12:00～13:00 クレオ前